

とみた くまさく
富田熊作氏

明治5年（1872）、中谷村上野（現：猪名川町）で酒造業を営んでいた富田太郎右衛門の次男として生まれました。先祖は宇和島城主富田信濃守の流れを引く旧家でしたが、家業の衰退により12歳の時、神戸にあった池田合名会社（骨董貿易商）に勤めました。その後明治36年（1903）に山中商会（東洋古美術を主とした貿易会社）に入社、ほどなくロンドン支店長として英国王室などの大コレクターを担当しました。大正11年（1922）50歳で山中商会を退社後、京都で美術商を営み、スイスの大富豪アルフレッド・バウアーのコレクション収集を手掛けたことは有名です。第2次世界大戦勃発前までは毎年のように日英間を往復していましたが、事業から引退した後は京都も引き払い、昭和28年（1953）81歳で亡くなるまで、故郷の中谷村で浄瑠璃や囲碁、将棋などの趣味を楽しみながら余生を過ごしました。



富田熊作氏

利用案内

【開館時間】午前9時30分～午後4時30分 ＊ 敷地内はすべて禁煙です。

【休館日】月曜日（祝日の場合はその翌日） ＊ 指定の場所以外に出入りしたり、又は許可を受けた場所以外を使用しないでください。
12月29日～1月3日

【観覧】無料 ＊ 指定された駐車場以外に駐車しないでください。
但し、貸館使用申込みが入っている場合は観覧できないこともあります。 ＊ 無断で設備及び備品を使用しないでください。

貸館案内

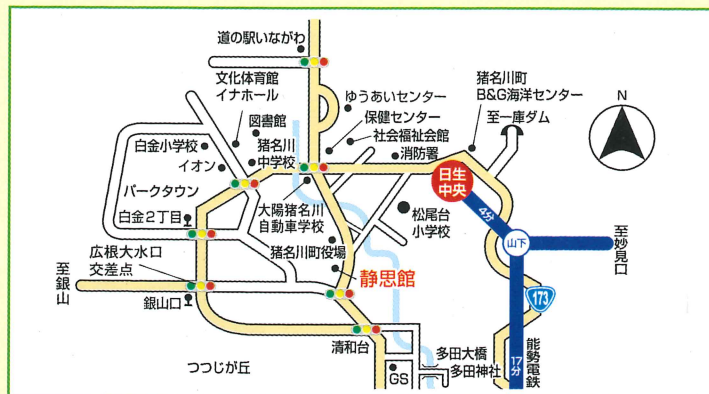
静思館は貴重な昔の建物の中を観覧していただけるほか、サークル活動や生涯学習の場としても広く一般に開放しています。所定の使用申請手続きをすれば、主屋の和室や茶室を貸館として利用していただくことができます。詳細については、下記にお問い合わせください。

問い合わせ

猪名川町教育委員会 教育振興課 社会教育室
〒666-0292
兵庫県川辺郡猪名川町上野字北畑 11 番地の 1
(TEL) 072-767-2600 (FAX) 072-766-8904
(E-mail) syakaikyoku@town.inagawa.lg.jp

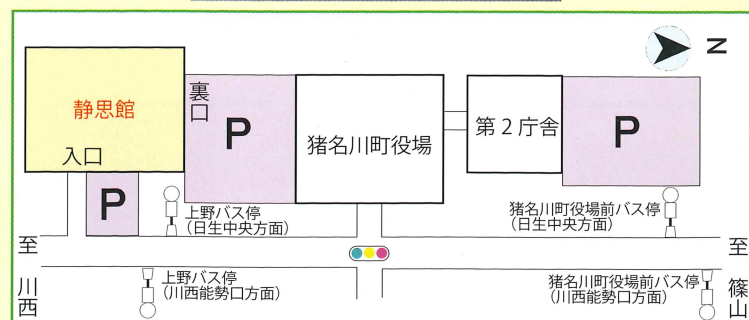
交通のご案内

【静思館】兵庫県川辺郡猪名川町上野字町廻 22 番地
(TEL) 072-766-0013



2015年6月発行 このインフレットは4000部作成し、1部当たりの単価は12.25円です。

駐車場のご案内



～ 国登録有形文化財 ～

猪名川町立

静思館

SEISHIKAN



静思館の紹介と館内見取り図

猪名川町立静思館は昭和59年（1984）に旧富田家住宅を譲り受け、文化の向上に役立てる目的で一般に公開している文化施設です。「静思館」という名称は深い緑と清々しい空気に恵まれた自然環境の中にたたずみ、来館者に憩いと静思の場を提供する建物であることから名付けられました。

旧富田家住宅は富田熊作氏が出身地である猪名川町上野に、敷地面積2,505㎡（759坪）、建物面積534.3㎡（162坪）を有した大邸宅を、昭和7年（1932）から3年の歳月をかけて建築したものです。京都の棟梁、斎藤宗太郎が手掛け、総工費は当時の金額で約10万円（昭和7年度の中谷

村の予算の2倍以上に相当する）ともいわれています。外国人客などを接待するという目的にそって、すべてのものが計画的に設計された建築物であり、ほぼ当時のまま現存しているのはとても貴重です。建材は北山丸太、丹波松、尾州 檜、唐木などあらゆる銘木が用いられ、精魂の限りを尽くして建てられました。江戸時代からの民家の様式を用いているようにみえますが、きわめて近代的な要素も併せ持つ住宅といえます。昭和62年（1987）に「ひょうご住宅百選」に選ばれ、さらに平成16年（2004）には国登録有形文化財に下記の18件が登録されました。

①主屋（しゅおく）

茅葺屋根、木造平屋建という純和風建築の外見ながら、小屋組はトラス（鉄筋構造に用いられる）構造になっています。内部は西に土間、東に2列6室を配し一番東側に座敷棟とトイレがあります。



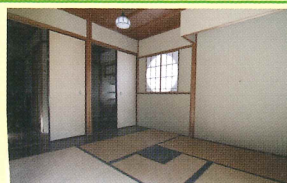
②表門（おもてもん）

屋敷の南にあり、主門は両開板扉で西に潜戸がついています。門前の「貴船石」で造られた雨落は貴重です。西に門座敷8畳、東に農具物置があります。



③茶室（ちやしつ）

主屋の南東に位置し、4畳半に、水屋が付いており、土間には立礼席が設けられています。



④書斎蔵（しょさいぐら）

熊作氏の書斎として使用され、外壁は漆喰塗。床下暖房（☆1）が設置されています。畳下に鉄板を敷き、その下に地下室（火床）を設け、物殻や炭火などを利用して暖めました。敷鴨居などには白檀が使われ、暖房時には芳香が漂いました。



⑤乾蔵（いぬいぐら）

土蔵造2階建、切妻の瓦葺。敷鴨居などは白漆喰塗。階段の勾配が緩やかになっています。



⑥中蔵（なかぐら）

土蔵造2階建。乾蔵とほぼ同様の造りです。



※氷室 ☆3



⑦井戸小屋（いどごや）

表門の南方に番小屋と並んで設けた井戸を囲む上屋です。



⑧番小屋（ばんごや）

入口に土間、2畳間、押入れ、4畳半、ぬれ縁、トイレがあります。



⑨土塀（どべい）

表門の東脇塀の南端から、屋敷地の東辺、北辺を囲む土塀です。総延長は約98m。



※氷室（ひむろ）

現在の冷蔵庫（☆3）にあたるもの。奥行約20m、左右に3ヶ所ずつ分かれています。戦時中は防空壕としても使われました。



⑦衣装蔵（いしょうぐら）

正方形の土蔵造2階建。床下に換気口を開けた切石の基礎の上に建ち、西隣の中蔵と同じ外観にして統一感を出しています。



⑧柴部屋（しばべや）

木造平屋建。木の部分は弁柄塗。小さい建物ですが、主屋と外観をそろえ、前庭の景色にもとけ込んでいます。



⑨道具部屋（どうぐべや）

南端の1間はトイレになっています。北に並ぶ炭部屋と庇が連なっています。



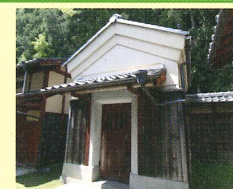
⑩炭部屋（すみべや）

木造平屋建。木の部分は弁柄塗。木瓜型※の高窓が美しいです。 ※木瓜紋の形



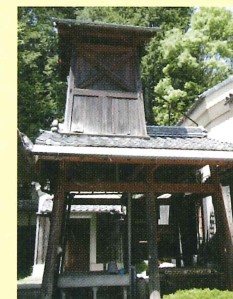
⑪味噌部屋（みそべや）

土蔵造。道具部屋、炭部屋となじむ外観になっています。



⑫給水塔（きゅうすいとう）

櫓の上に貯水槽を設置し、井戸水をポンプで汲み上げ、落差で主屋などの水道管に水を送っていました。当時珍しかった水洗式トイレ（☆2）にも使用されました。



⑬供待ち（ともまち）

来客のお供の人の待機場所。柱の間は開放されており、小壁は土塗です。



⑭庭塀（にわべい）

表門の東端から主屋南面の式台東側にいたる瓦葺塀です。



⑮勝手門（かつてもん）

主屋の土間側南西角と道具部屋の南東角を結んで設けられた通用門です。

